

城南家保ニュース Vol. 17-5

熊本県城南家畜保健衛生所 平成17年8月 発行

TEL: 0966-22-3814 FAX: 0966-22-3617

<http://www.pref.kumamoto.jp/construction/section/kaho/jounan/jounan-index.htm>

<改めて考える> 消毒について!!

「消毒」とは、生存する微生物の数を減らすために用いられる処置法で、必ずしも微生物をすべて殺滅したり除去するものではありません（日本薬局方より）。

洗浄や乾燥と組み合わせ複数回実施することで病原体を限りなく減少させ、家畜が病原体と接触するのを限りなく少なくする手段です！

1 消毒法について

熱水・煮沸等の物理的な消毒法もありますが、消毒薬を用いた化学的方法が多く利用されます

- 1) 浸漬法：消毒薬に器具などを完全に浸漬する
- 2) 散布法：スプレー式の道具を用いて消毒薬を撒く
- 3) 噴霧法：消毒薬を霧状にして室内などに充満させる

2 消毒薬を使用する上での注意点（有効かつ安全に使用するため）

- 1) 目的にあった消毒薬と消毒法を選択する
- 2) 対象物の材質、構造などに適した消毒薬と消毒法を選択する
- 3) 消毒薬を正しく調製し使用する
- 4) 有機物で汚染されているものを消毒する前には十分洗浄を行う
- 5) 使用上の注意を守り、保管、廃棄にも注意する

3 主な消毒薬について

対象となる微生物に有効性が確認されている消毒薬を選択することが必要です

- 1) 低水準消毒薬：ほとんどの細菌、ウイルス、ある種の真菌に効果がある
例) 逆性石けん、両性石けん、クロルヘキシジンなど

2) 中水準消毒薬：結核菌、栄養型細菌、ほとんどのウイルス、ほとんどの真菌に効果があるが、必ずしも芽胞を殺滅しない

例) 次亜塩素酸ナトリウム、ポビドンヨード、消毒用エタノール、クレゾールなど

3) 高水準消毒薬：芽胞が多数存在する場合を除き、すべての微生物を死滅させる

例) グルタラール、フタラール、過酢酸など

4 消毒法（薬）の選択

1) 疾病発生がなく家畜が存在する状況で行う予防的消毒では、

畜舎消毒：逆性石けん

踏込み消毒槽：オルソ剤または逆性石けん

2) コクシジウム症に対しては(オーシストには)、

オルソ剤（オルソジクロロベンゼンを含む消毒薬）を使用する

3) 鶏伝染性ファブリキウス嚢病ウイルスは(外被膜がないため)、

ヨウ素剤、ホルマリンが有効

4) ヨーネ病発生農場では、

畜舎消毒：石灰乳塗布※が有効（事前に十分洗浄する）

踏込み槽：ヨード剤や塩素剤を使用する

※ 生石灰(酸化カルシウム)は土壌消毒では1kg/3.3m²を散布、その他の場合は水で2~4倍に攪拌、放熱し、消石灰(水酸化カルシウム)として散布（日時の経過したものは効果がなし）

5) 炭疽、破傷風などの芽胞を有する細菌には、

次亜塩素酸ナトリウム、さらし粉(別名：カルキ、漂白粉・クロルカルキ・クロル石灰・次亜塩素酸カルシウム)を使用する

ご不明な点は、城南家畜保健衛生所まで

TEL 0966-22-3814 FAX 0966-22-3617